

校長室だより

NO.16 平成29年1月10日

松原市立松原東小学校長 吉岡 英治

二十四節季 「大寒（だいかん）」

1/20 頃十二月中 太陽視黄経 300 度 冷ゆることの至りて甚だしきときなれば也（暦便覧）一年で一番寒さの厳しい頃。逆の見方をすれば、これからは暖かくなると言うことである。春はもう目前である。

平成29年「丁酉（ひのととり）」がスタートしました。酉年なので、酉・鶏に関する四字熟語を調べてみました。

「鶏群一鶴（けいぐんいつかく）」

【意味】 多くの凡人の中に、一人すぐれた人がいるたとえ。

【注釈】 多くの鶏の群れの中にいる一羽の鶴の意から。

【出典】 『晋書』『世説新語』



「鶏口牛後（けいこうぎゅうご）」

【意味】 大きな集団の中で尻にいて使われるよりも、小さな集団であっても長となるほうがよいということ

【注釈】 「鶏口」とは、鶏の口の意味から転じて、小さな団体の長のたとえ。
「牛後」とは、牛の尻の意味から転じて、大きな団体に従って使われる者のたとえ。

【出典】 『史記』蘇秦列伝

「酉」という感じは酒つぼを描いたもので、「酒」に関する字に使われてきました。収穫した作物から酒を抽出するという意味や、収穫できる状態であることから「実る」ということも表します。そのことから、果実が成熟した状態を表しているとされています。

もともと十二支の子、丑、寅、卯…亥には動物の意味はなく、庶民が十二支を覚えやすくするために身近な動物が当てられたということです。

鳥は人に時を報せる動物です。また、「とり」は「とりこむ」と言われ、商売などでは縁起の良い干支です。さらに、酉の干支の特徴として、“親切で世話好き”とあります。

人にはそれぞれよい所があります。そのいい所に気づき、活かしていき、「一鶴」となるように、また、子ども一人ひとりが自分の長所に自信を持って、何かの「長」となり、この年を「実り」ある年にしていけるよう取組んで参ります。

地域の皆様並びに保護者の皆様、本年も変わらぬご支援をよろしくお願いいたします。